

<h1>第 330 回月例会議事録</h1>	安全技術応用研究会	
	承認	確認
	企画運営委員長	企画運営委員

- ◎ 日時 2021年3月19日（金）15：00～17：00
- ◎ 場所 web 開催
- ◎ 出席者 16人 （法人会員：5社8人 個人会員：8人）

## 1. 杉本旭新会長挨拶

15：00-15：30

### \* SOSTAP の黎明期と安全論理について

当時の労働省産業安全研究所に30年勤務し、その時代に蓬原先生と出会い安全の論理を議論した。

- ・ SOSTAP で最初に来上がったのは「安全確認型」と「根本精神」である“安全確認、運転OK”の原則。
- ・ ベネフィットと危険のトレードオフは絶対にしない。言い換えれば危険の前ではベネフィットを考えずに「事故が起こる前に絶対に止める。」が安全の基本である。
- ・ “機械の安全ははこうやって作っていくんだ”という体系をこれからの SOSTAP で完成させてもらいたい。

## 2. 意見交換

### 2-1. 意見交換 「自社の経営者の安全に対する考え方や姿勢について」

15：30-16：30

自社（又は勤務していた事業場）の経営者の安全活動の姿勢や社内の安全風土等について様々な意見が出され、安全に関して外部の意見を望んでいる企業もあり、今後の安応研の果たすべき役割も浮き彫りになってきた。

#### —主な意見等—

- ・ 会社全体として安全優先が言われているが、TOP（経営者）と中間管理職の間に、安全に対する考え方にギャップがある。
- ・ コロナ禍で、経営の悪化のため利益優先傾向になり安全にコストがかけられなくなっている。
- ・ 最近機械設計のリードタイムがタイトになり、リスクアセスメントまで手が回らないことがある。

### 2-2. 「TOP の安全に対する姿勢の影響力について」

… 石原企画運営委員  
16：30-17：00

1960年代初めに行われたエール大学のアイヒマン実験（権威への服従）を紹介し、安全な会社を作るにはデュボンの掲げるトップの“Felt Leadership”が必要であることを説明。その例としてトヨタ自動車や帝人のTOPの安全に対する姿勢を紹介した。（詳細は資料「TOPの安全に対する姿勢の影響力について」を参照。）

月例会説明資料：会員専用ページに掲載

資料番号	資料名
330-2-1	TOPの安全に対する姿勢の影響力について（配布資料）